令和４年度 第２回 ネイパル森運営協議会
議事録

＊　と　き／令和５年３月 23 日（木）
午後 17 時 30 分～19 時 00 分
＊　ところ／ネイパル森　大研修室

【出　席　者】

委　員　５名／須藤　智裕　（森町教育委員会社会教育課長）
山口　敏男　（全国林業研究グループ連絡協議会）
金澤　　力　（森町校長会）
藤村　　学　（北海道森高等学校長）
鍋谷　雪子　（株式会社　nabeya）
菊池　徳子　（森町社会教育委員）
本田　憲司　（オブザーバー道教委社会教育主幹）
事務局　２名／小野　俊英　（所長）
菊池　澄子　（運営課長）

【欠　席　者】

委　員　１名／小出　政彦　（八雲町地域子ども会育成連絡協議会）
（他会議と重複のため）

１　開　　会　＜進行／菊池課長＞

２　あいさつ

・　ネイパル森所長あいさつ
本会議出席のお礼と併せ、施設運営に関し、様々な意見をもらいより良い施設運営を目指したいとあいさつを行った。

３　議長挨拶〈金澤委員長〉

活動報告のまとめ、委員からの貴重な意見をもらい次年度につながる施設づくりに協力をお願いしたいとあいさつがあった。

４　報告事項＜進行／金澤委員長＞

（１）　令和４年度の取組状況について
ア．令和４年度の取組の総括
イ．施設利用状況
ウ．実施事業概要
エ．要求水準書の達成状況

アからイの２点について事務局から資料をもとに次の説明を行った。

ア　令和４年度の取組の総括【資料１ページ、報告資料１】

・年度当初めには、利用者の増加を見込んだが新型コロナウィルス感染症の影響のためキャンセルが相次いだため、利用者が伸び悩んだ。

・新型コロナウィルス感染症対策としては、パーテーションの設置や各宿泊室・各研修室に空気清浄機を設置。事業についても帰宅後、数名の感染報告があったが、他の参加者からは感染が出ずに広がることはなかったので、感染防止対策は、一定程度効果があったと考える。なお、感染の報告があった

利用者は潜伏期間を考慮するとネイパル森で感染した可能性は低いと考えられる。

・管理運営方針を強く意識することで、利用者から職員の対応に関するアンケート結果で「満足」だけを抽出した結果が９６．３％と、当初目標を上回る結果となった。

イ　施設利用状況【資料２ページ、３ページ、報告資料２】

・　宿泊研修の任意実施や新型コロナウィルス感染症の流行、全国旅行支援の運用のため、一般施設を利用した方が利用者にとってのメリットがあったため、家族利用が伸び悩んだ。また、日帰り利用料金を徴収することになり、これまでカウントしていた町の事業での参加者や、少年団等見学の利用者を、日帰り利用から外したため、日帰り利用者数が減少となった。

【委員】

新規プログラム及び事業について人気のあるものについて

- 今年度はニュースポーツやこれまで行かせていなかった水辺や冬季間の地域の自然をダイナミックに生かした内容とした。また、事業数を見直し繁忙時期は事業を控え、閑散期に事業を増やした。収益事業と教育事業を区別化して行った。

【委員】

事業申し込み後の落選者へのフォロー、申込が殺到し、抽選になるとサービスの低下につながるのでは？また、落選した人を大切にできないか？

- 活動に伴った安全管理を考慮した上で最大数受け入れている。人数に制限が出るのはやむを得ないが、可能な限り人数を増やして受け入れしている。また、チラシだけではなく、HP やメールで事業案内・募集を行い満足の得られる工夫もしている。

ウからエの２点について事務局から資料をもとに次の説明を行った。

ウ　実施事業概要【資料４ページ、報告資料３】

・　令和４年度は１４の主催事業を行った。このほかに行った事業としては日帰りで、三菱マテリアル様との植樹祭を行い、また、函館の大鎌電機様からトイドローンを寄贈いただいたことにより、ドローン体験会をメール登録者に限定し募集を実施しました。

・ミッションインネイパル森では地域産業を生かした事業を行い地域の誇りをもつきっかけとなった。

・大人向けを対象にした事業を行ったが、大人を集める難しさを痛感した。

・自然を生かしたダイナミックな活動（日暮山でのスノーシューハイク・いかだ）は令和５年度も継続して行いたい。

・広報については道央圏や、道の駅や新函館北斗駅にチラシを配架した。年度初めの会議で説明した関東圏の広報は、経費面で断念した。

【委員】

民間の体験観光サイトを活用しては？“aini”は参加予約サイトのため日本全国から申込みもできるので、手数料の発生があるものの、広報等の経費面

を考えると利用してみても良いと思う。

エ　要求水準書の達成状況【資料５ページ、報告資料４】

・道教委から目指すべき水準が与えられている。宿泊稼働率６０％に対し、５２．３％程度になる見込み。学校利用が複数の場合、隣り合う宿泊室に違う学校の利用者を入れることは事故等につながる恐れもあり、配慮した宿泊室の割り当てを行うと稼働率６０％はなかなか難しい状況もあるため、５０％を下回らないように死守し、稼働率以外の項目を達成することが重要となる。

・主催事業のキャンセルについては、家族単位の事業は、家族単位となるため、直前のキャンセルを減らす努力や、抽選結果後のキャンセルについては繰り上げ当選とし、事業の充足率に大きな影響につながらないようにしている。

・委員からは特段意見はなく、全ての報告内容は確認された

５　議事

（１）　令和５年度管理運営方針について【資料８ページ、９ページ】

・事務局から、令和５年度の管理運営方針を、ポンチ絵とも併せて説明し、今年度の３つの行動指針「直す」「創る」「魅せる」に合わせ、目標達成にむけて職員が臨むことを説明した。

・質疑応答

➢　委員からは意見は出されなかった

・採決

➢　**採決が行われ、賛成多数により承認された。**

（２）　令和５年度主催事業計画（案）について【資料１０ページ】

・令和５年度は１２事業を予定としているが、１０月の受入状況を鑑みて主催事業を実施することとしている。閑散期には利用状況により日帰り事業等も積極的に計画していく。令和４年度に行った「ともリッチ」を年度初めに行うことで、後の事業参加につなげる狙いとした。

・質疑応答

➢　委員からは意見は出されなかった

・採決

➢　**採決が行われ、賛成多数により承認された。**

すべての議事が終了し、金澤委員長の議事進行を終了する。

以上をもって、令和４年第２回運営協議会を終了し、解散する。

※本会議は、換気扇や扇風機による強制換気、委員の座席を十分にあけるなど、感染防止対策を講じた上で実施した。